



建設業業況感 若干の改善傾向を示す

令和元年8～12月 中小企業景況調査 結果報告書

当所では、藤枝市内小規模事業所の経営動向を把握するため、四半期ごとに景況調査を実施しています。

令和元年8～12月期の調査がまとまりましたので、概要を報告します。

※本調査は、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5種200社を対象に行っています。今回の回収率68.5%

【主要な表現について】

○業況判断:調査対象企業が自らの業績に下した判断。 ○DI値:(増加・好転と回答した割合)－(減少・悪化と回答した割合)
悪化すればするほどDI値は▲(マイナス)になります。

管内全産業の業況

業況判断の動向(表1)：全産業での業況は、DI値▲19.0で前回(2019年7月～9月)より4.0ポイント減少。今回は建設業及び卸売業、サービス業の業況DI値で改善傾向を示しました。また小売業は業況DI値前回▲32.0から今回▲50.0と減少傾向を示しました。

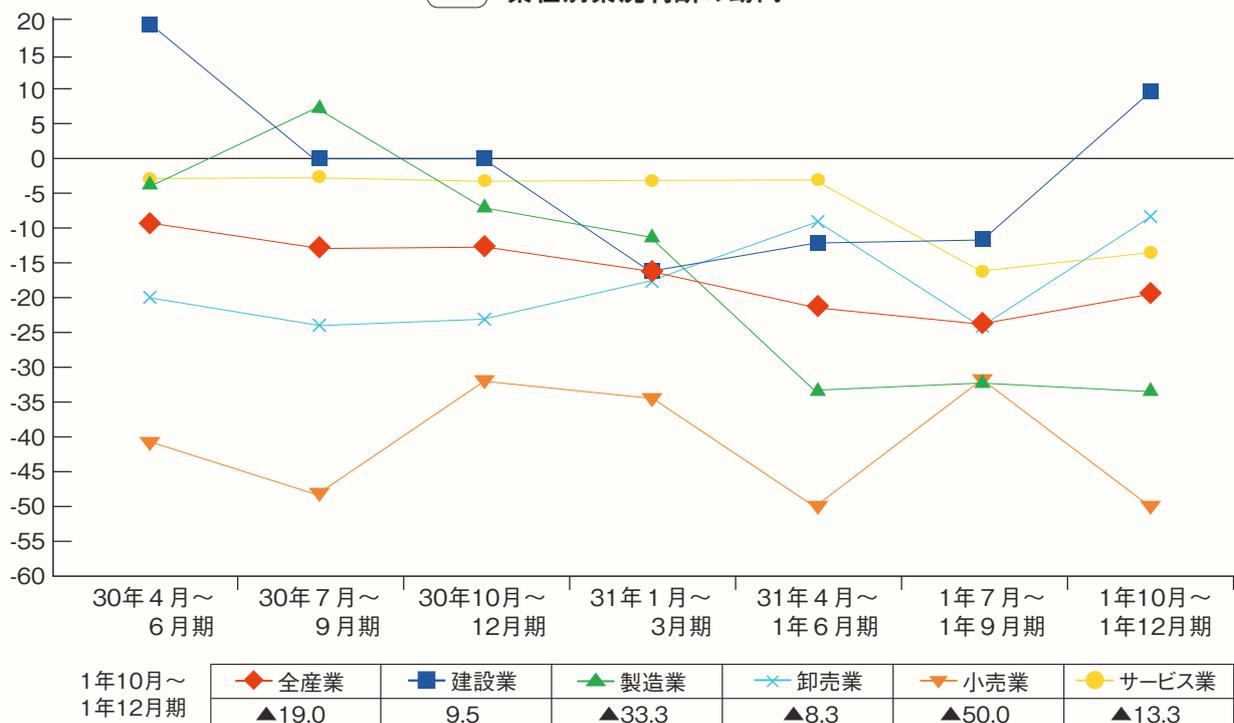
全産業売上高の推移：前回▲17.8ポイント(2019年7月～9月)から10.0ポイント減少しました。
前回調査と比べ、特に小売業が減少傾向を示しました。

全産業資金繰りの動向：前回▲16.3ポイント(2019年7月～9月)から0.2ポイント改善しました。
全産業、依然として足踏み傾向を示しました。

全産業採算の動向：前回▲22.6ポイント(2019年7月～9月)から1.8ポイント改善しました。
建設業がプラス値で改善傾向を示しました。

全産業雇用人員の動向：前回▲3.9ポイント(2019年7月～9月)から0.3ポイント減少しました。
前回調査に続き、建設業と製造業が減少傾向を示しました。

表1 業種別業況判断の動向



問合せ先 藤枝商工会議所 経営支援課第一課 TEL: 054-641-2000